

FD 研修報告書

報告者 看護福祉学部 本田和正

第6回専門分野別教育開発セミナー

「国際標準の大学教育 いかに関分の専門を英語で教えるか」

主催：金沢大学教育開発・支援センター

共催：留学生センター、外国語教育センター、国際学類、
国際交流本部

後援：大学コンソーシアム石川、

独立行政法人に本学制支援機構(JASSO)東海北陸支部

日時：平成21年11月21日(土) 13時~17時10分

会場：金沢大学サテライトプラザ3階集会室

プログラム：

13時~13時10分 開会挨拶

長野 勇(金沢大学副学長)

青野 透(金沢大学教育開発・支援センター長)

13時10分~14時10分

基調講演「英語による授業のノウハウ共有」

中井 俊樹(名古屋大学高等教育研究センター准教授)

14時10分~14時20分 休憩

14時20分~15時50分 学内事例報告(3件)

「外国人から見た英語による授業運営」

Ertl John Josef(外国語教育研究センター准教授)

「環境をテーマとするジョイントクラスの実践報告」

結城 正美(外国語教育研究センター准教授)

「工学系大学院における英語による専門教育の実践報告」

中山 譲二(自然科学研究科教授)

15時50分~16時05分 休憩

16時05分~17時05分 ディスカッション

17時05分~17時10分 閉会宣言

志村 恵(金沢大学留学センター長)

大学教育の国際性を担保する英語で専門教育を教える授業が必須となってきた現状をふまえて上記セミナーが開催された。

中井俊樹先生（名古屋大学高等教育研究センター准教授）の基調講演の中で英語による専門教育を開講している大学が日本でも増加しており、更に、英語を用いた授業だけで卒業できる大学も増加していることが示された。名古屋大学における英語を用いた授業のノウハウを共有するために出版された「大学教員のための教室英語表現300」に関する紹介がなされた。

金沢大学の事例報告3件のうち、Ertl John Josef 先生と結城正美先生の報告では英語を学ぶのではなくコミュニケーションツールとして英語を使用するのを学ぶことに主眼が置かれているのが印象に残った。語学を専門として学ぶことが目的ではない大学における語学教育のあり方について再考を促すセミナーであったように思う。英語を国際標準としてのコミュニケーションツールとして捉え、完璧な英語を目指すのではなく、英語を使ってコミュニケーションをできるようにすることを目標としている点に注目したい。また、中山譲二教授の報告は工学系の修士課程の大学院生を対象とした英語による専門科目の教育であり、参考になる事項が多々あった。英語による授業のきっかけは日本語能力の非常に低い留学生が受講したことがきっかけであったが、日本人学生からも好評であったことから続けておられるとのことであった。英語による講義であるが故に授業で話すことができる内容は日本語で話すよりも少なくならざるを得ないので、内容が厳選されるとともに説明が丁寧になったそうである。また、学生は英語を聞き取ることに集中しなければならないので私語が非常に少なくなったとのことである。また、授業でカバーできない部分はテキスト（英語で作成）を充実させているとのことである。また、英語による説明後、日本語による要約をつけることで、単に日本語で話して流すよりも学生の理解度が良くなっているとのことであった。中山先生のお話は日本語の授業を実施する上でも大変考えさせられるものであった。